

福岡・大宰府跡（大楠地区）

- | | | |
|---|---------------|---|
| 2 | 調査期間 | 一九八一年（昭56）四月～九月（第七六次調査） |
| 3 | 発掘機関 | 福岡県太宰府市大字觀世音寺字大楠 |
| 4 | 調査担当者 | 横田賢次郎・高橋 章 |
| 5 | 遺跡の種類 | 九州歴史資料館 |
| 6 | 遺跡の年代 | 奈良時代～平安時代 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | 当地区は条坊復原案の右郭六条二坊にあたり、大宰府政府跡隣する藏司地区の南方約二〇〇mに位置し、一五mほど南よりは御笠川の氾濫原の痕跡をとどめている。一九七一年度に藏司の県道南接地の調査で奈良時代後半ごろと考えられる南北方向溝（SD三二〇）を検出したが、今回の調査では、その延長部をて溝五条、礎石建物一棟、土壙四などの遺構を検出した。SD一〇は幅約一三m、深さ約一・六mを測り、政庁中軸線からは西一九六mに位置している。これの西側では顯著な遺構が検出さ東側で礎石建物を検出したが、これは政庁跡前面の不丁地区かがる官衙群の一部で、SD三二〇は政庁周辺から御笠川へ通じ |

また出土遺物から溝の時期を見れば、八世紀前半にはすでに機能し、一一世紀後半に埋没したようである。

主な出土遺物は、須恵器、土師器、青磁、白磁、綠釉陶器、各種の木製品、銅錢（富寿神宝）、石帶そして木簡などである。

木簡はSD二二〇から一一点など計一七点が出土した。○三二型式が二点、○三三型式が一点で、他はいずれも〇八一型式である。

ほかに木製品に墨書きしたものが二点出土した。

一九点の墨書を見ると、文字ないし文字と推定されるもの六点墨痕のみのもの一〇点、形態的には木簡であるが、墨痕の認められないもの三点となる。



太宰府跡（大楠地区）木簡出土地点図

福岡・九州大学（筑紫地区）構内遺跡

(72)×14×2 081

• × □ 遠遠遠 □ ×

• 君 君

• □□□伏」

• □□□

(3) 「佐 [カ]

(4) • □□□や末々末 □ ×

• □□□や □ ×

以上、代表的なものを示したが、(1)は遠を筑前国遠賀郡を意識したものとすれば、君は郡になる可能性がある。(3)は曲物の側板に墨書したもので、樹皮で綴じ合わせてある。

9 関係文献

九州歴史資料館 『大宰府史跡 昭和五六年度発掘調査概報』
(倉住靖彦)



(福岡)

所在地 福岡県大野城市大字白木原
調査期間 一九八一年（昭56）四月～八月
発掘機関 九州大学筑紫地区埋蔵文化財調査会
調査担当者 西健一郎・赤崎敏男
遺跡の種類 不明
遺跡の年代 弥生時代～平安・鎌倉時代
7 遺跡及び木筒出土遺構の概要
当遺跡は、福岡県春日・大野城両市にまたがる旧アメリカ軍基地跡のうち、九州大学に移管された南側の約一九万m²内に所在する遺跡の総称で、春日市所在の弥生時代の遺跡として有名な須玖・岡本遺跡の南西方に当る。九州大学では、各施設の建設に先立ち、一九七八年一月より構内の埋蔵文化財についての発掘調査を実施し、これまでに縄文時代の包含層、弥生時代の住居跡・土壙、古墳時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡、奈良時